

氏名(本籍)	IROHA Ebuka Valentine (ナイジェリア連邦共和国)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	甲第 422 号		
学位授与年月日	令和 6 年 9 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項		
研究科・専攻名	工学研究科・基盤工学専攻		
学位論文題目	An Underutilization of Engineering Project Managers in Construction Industry: A Case Study of Nigeria 建設業におけるエンジニアリングプロジェクトマネージャーの活用不足：ナイジェリアの事例研究		
論文審査	(主査) 高知工科大学	教授	土屋 哲
	高知工科大学	教授	金 広文
	ボンド大学	教授	渡邊 法美 (外)
	香港大学	教授	Steve Rowlinson (外)
	高知工科大学	教授	西内 裕晶

## 審査結果の要旨

### 1. 論文の評価

建設事業の費用超過・工期遅延の主な一因として、プロジェクトマネージャー（以下 PMR と称する）の活用が不十分であることが挙げられている。本論文は、ナイジェリア国における本問題を多角的な視点から分析し、解決の方向性を提案したものである。評価すべき第一の成果は、制度分析の手法を用いて、PMR の不十分な活用は、「PMR の貢献低下」と「PMR のコミットメント・動機づけの低下」という二つのサブシステムから構成される構造的な問題であることを定性的に明らかにした点である。これは、実務者にとって問題の全体構造を示すため、実務的価値が高い。同時にこれは、Williamson が提唱した制度分析の枠組みが、本問題においても有効であることを示すという点で、学術的価値が存在することを示す。第二の成果は、PMR による貢献が不十分な程度を、組織による PMR への期待貢献度と実際の PMR の貢献度との差異として表すことによって、PMR による貢献が不十分なタスクを具体的に明らかにした点である。これは、既往研究には無く、実務的価値の高い成果である。第三は、PMR による貢献が不十分な程度の定義、ゲーム理論によるモデル化、PMR への組織支援と PMR の貢献度との回帰分析結果を用いて、a) (組織への所属、支援) が PMR と組織にとっての支配戦略となっていること、b) ただし、その支援は低水準であり多くの PMR を “Outperformer (期待を上回る貢献者)” とするには不十分であること、c) 組織支援、並びに、諸制度要因 (政治的圧力、脆弱なガバナンス等) の改善効果を予備的に推定する方法を示し、提案したことが挙げられる。これら一連の分析手順は、既往研究には見られない創造的な手法であると言える。

ただし、論文の最終発表では、学術的新規性の説明が十分ではないこと、ナイジェリアにおけるプロジェクトマネージャーの資格制度、刑事法等の同国固有の「文脈」の説明が無いことから、結論の導出過程が分かりにくくなっている。学位論文でも、両者は重要な点なので、丁寧な記述が求められる。

### 2. 審査の経過と結果

- (1) 令和 6 年 6 月 26 日 5 名の審査委員のもと協議され、博士後期課程委員会で学位論文の受理を決定した。
- (2) 令和 6 年 8 月 22 日 公開論文審査発表会及び最終試験を実施した。
- (3) 令和 6 年 9 月 4 日 博士後期課程委員会で学位授与を可とし、教育研究審議会で承認された。